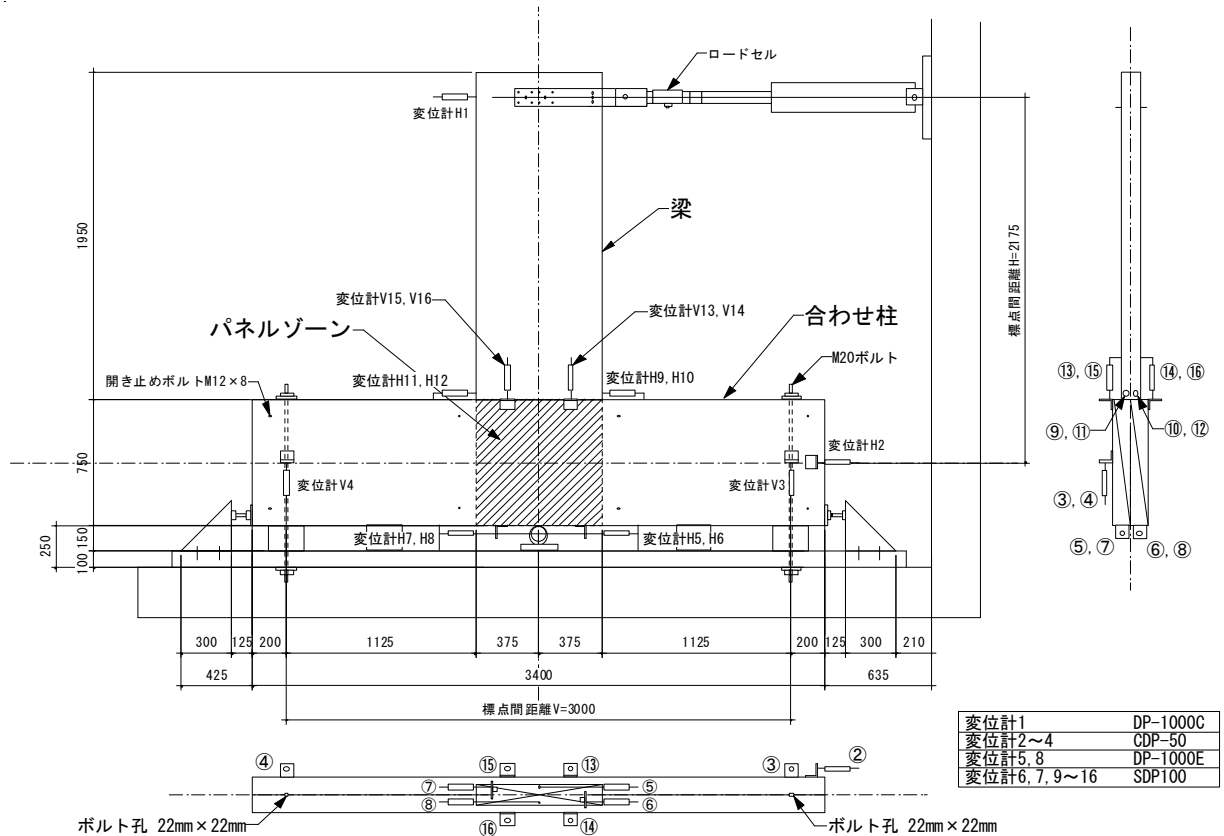


● 姿図・寸法

【使用材料】

柱 2-105mm × 750mm、梁 120mm × 750mm

いずれもカラマツ E105-F300



● 適用条件

柱、梁のせい 600mm までは降伏後の靱性含めて検証済み。

二次剛性は一次剛性の 1/8 とする。

パネルゾーンにはシアキーや梁材の引き抜けに抵抗するものとしてボルト等を配置する。

● 概要

2 枚の合わせ柱と 1 枚の梁から成る合わせ柱型の接合部である。接合部パネルゾーンは 750 × 750mm の部分を柱材のみ各 60mm 切り欠いた。

● 接合具（メーカー、入手方法等）

—

● 問い合わせ先 URL

東大農学部木質材料学研究室 03-5841-5253

●理論式

後述するモデル図の上部めり込みと端部めり込みのつり合いによって計算される。

●計算式

木質構造接合部設計マニュアル「4.6 嵌合を利用した通し貫と掘立柱のモーメント抵抗接合」の掘立柱式柱脚接合部の回転剛性と降伏モーメントの計算式に準拠する。

$$\text{接合部回転剛性: } K_{\theta} = \frac{y_p E_{90}}{3Z_0} \left\{ x_p^3 + 2x_p^2 Z_0 + (l - x_p)^3 + \frac{3}{2} (l - x_p)^2 \mu Z_0 \right\}$$

$$\text{接合部降伏変形角: } \theta_y = \frac{Z_0 F_m}{x_p E_{90} C_{xm} \sqrt{C_{ym}}}$$

$$\text{接合部降伏モーメント: } M_y = K_{\theta} \times \theta_y$$

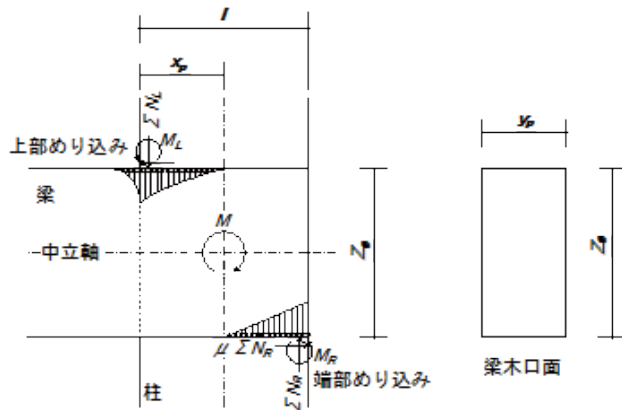
ここで、

$$E_{90} = \frac{1}{50} E_0, \quad F_m = \frac{2.4}{3} F_{cv} (\text{めり込み強度}), \quad C_{xm} = 1 + \frac{4Z_0}{3x_p}, \quad C_{ym} = 1 + \frac{4Z_0}{3ny_p}$$

$l, x_p, y_p, Z_0$  は後述するモデル図の各寸法、 $\mu$  は摩擦係数であり、この場合はすべり摩擦となるため、0.3~0.5程度とする。 $n$  は繊維方向に対する繊維直交方向の置換係数であり、樹種がカラマツの場合は  $n=7$

●モデル化

上部めり込みと端部めり込みのつり合いから計算  
建物全体モデルの場合は接合部回転ばねに置換



●特性値

	$K_{\theta 1}$ (kNm/rad)	$K_{\theta 2}$ (kNm/rad)	$M_y$ (kNm)	$\theta_y$ ( $\times 10^{-3}$ rad)	$M_u$ (kNm)	$\theta_u$ ( $\times 10^{-3}$ rad)	$M_{max}$ (kNm)
h750	6493	897	65.7	12.1	93.0	36.2	103.4

要材  
素料

接合  
器具

接合  
部

部組  
材立

屋根

柱

梁

1ブ  
スレ

壁

床

集  
成材

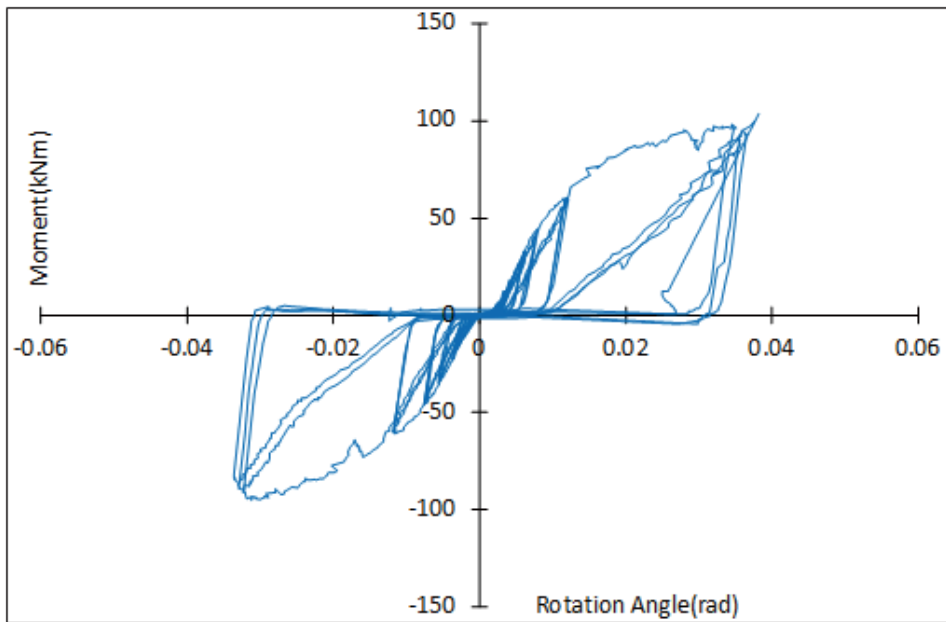
≡

製  
材

合  
板

そ  
の  
他

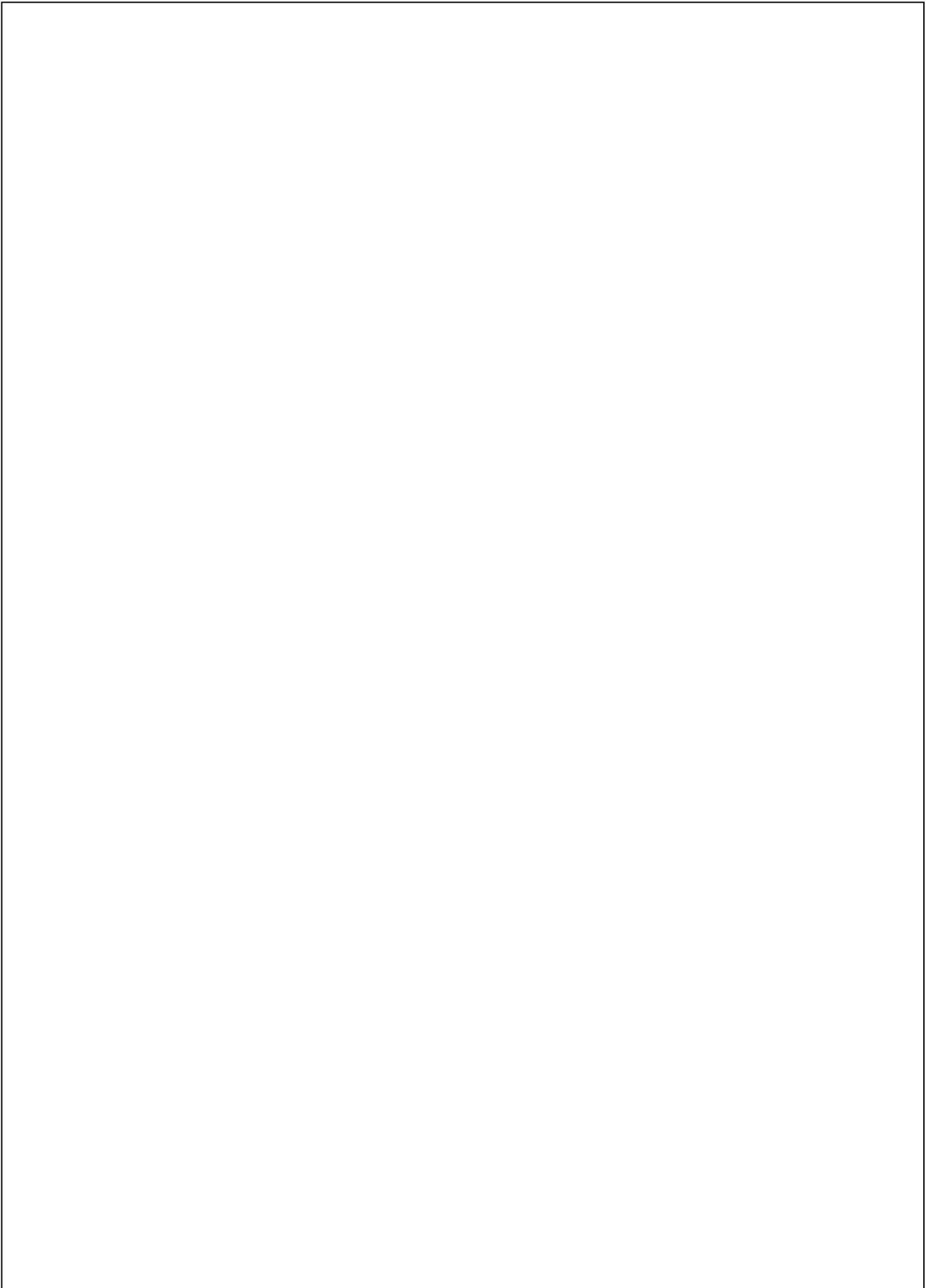
● 荷重変形



● 破壊性状

- ・ 梁せいに対して加力点が端に寄りすぎたため、梁の加力点付近から縦に割裂が生じた。





要材  
素料

接合  
具

接合  
部

部組  
材立

屋  
根

柱

梁

丨ブ  
スレ

壁

床

集  
成  
材

「  
≡  
」

製  
材

合  
板

そ  
の  
他